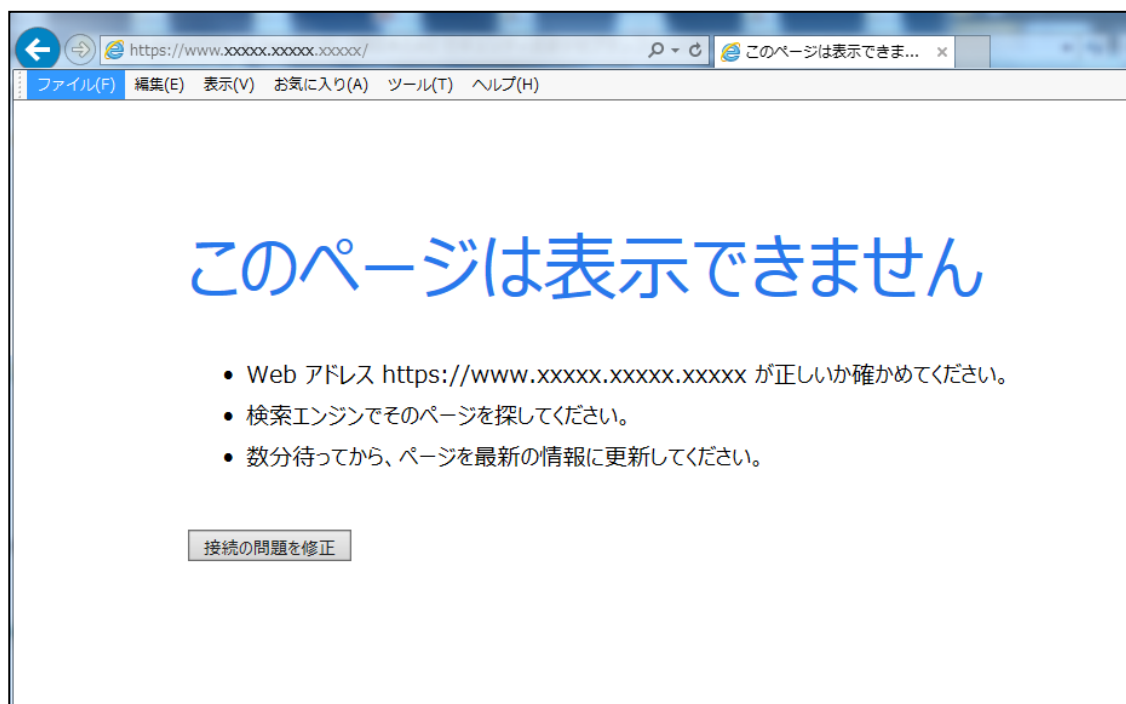


# HTTPS通信が遮断される場合の対処（1/5）

以前アクセス可能だったWebページに2018年6月4日以降アクセスできなくなった場合、ゲートウェイ装置のファームウェアバージョンアップによる影響の可能性があります。  
その場合、以下の手順に則りゲートウェイ装置の設定を変更することで再度アクセス可能にすることができます。

## 【ゲートウェイ装置で通信が遮断された場合のWebブラウザ表示イメージ（※）】



（※）本メッセージが表示される原因はURLの間違い、Webサーバー側の過負荷等複数考えられます。  
ゲートウェイ装置のバージョンアップが原因だった場合のみ有効であることをご理解の上以下の手順を実施してください。

# HTTPS通信が遮断される場合の対処 (2/5)

開通時に送付したメールに記載のURL (https://clp.trendmicro.com/Dashboard?T=fWX6g) にアクセスし、アカウント名・パスワードをご入力いただくことによりLicensing Management Platform (LMP) にログインすることができます。  
ログイン後、画面右側の「コンソールを開く」をクリックしていただくことにより、Cloud Edge Cloud Console (CECC) にログインすることができます。

登録済みの製品/サービス

サービスプラン名	製品/サービス	シート/ユニット	ライセンス種別	開始日	有効期限	アクション
【体験版】CloudEdge 50	Cloud Edge 50	5 シート	体験版	2018/05/22	2018/06/21 (残り31日)	<a href="#">コンソールを開く</a>

有効期限内 間もなく期限切れ 有効期限切れ

# HTTPS通信が遮断される場合の対処 (3/5)

CECCにログイン後[ポリシー]の[許可/ブロックリスト]をクリックし、許可リストに[URLの追加]を行います。

The screenshot shows the CECC web interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード', 'ゲートウェイ', 'ポリシー', '分析とレポート', and '管理'. The 'ポリシー' tab is selected. On the left sidebar, '許可/ブロックリスト' is highlighted under the 'ポリシールール' section. The main content area shows the '許可/ブロックリスト' management screen. The '許可リスト' tab is active. A red box highlights the '追加' (Add) button. A red arrow points from the '追加' button to a dropdown menu that is open, showing two options: 'URLの追加' (Add URL) and 'FQDN/IPアドレスの追加' (Add FQDN/IP Address). Another red arrow points from the 'URLの追加' option to a callout box. A third red arrow points from the 'ポリシー' tab to another callout box.

[ポリシー]から[許可/ブロックリスト]に進みます。

[許可リスト]で[URLの追加]を実施します。

# HTTPS通信が遮断される場合の対処 (4/5)

[許可するURLの入力]欄にアクセス可能にしたいWebサイトのURLを記載し、[保存]をクリックします。  
なお、むやみにURLを追加するとセキュリティホールになりかねませんので、必要なURLのみ許可設定を実施してください。

許可するURLの追加/編集

許可するURLは安全であると見なされます。この設定はURLフィルタルールよりも優先されます。URL文字列の先頭または最後に、ワイルドカードとしてアスタリスク (\*) を使用できます。

許可するURLの入力

\*xxxx.xxxx/\*

ゲートウェイグループの選択

☒ すべてのゲートウェイ

☐ ゲートウェイグループを指定する

保存 キャンセル

アクセス可能にしたいWebサイトのURLを入力します。

「\*」はワイルドカードで下記のように用います。

「https://xxxx.xxxx/\*」

↓

「https://xxxx.xxxx/」で始まるURLを許可

「\*xxxx.xxxx/\*」

↓

「xxxx.xxxx/」を含むURLを許可

入力が完了したら  
[保存]をクリックします。

# HTTPS通信が遮断される場合の対処 (5/5)

[すべて配信]をクリックし、正常に処理が完了しましたらログアウトします。

以上の手順でアクセス可能にならない、または不明点がございましたら「セキュリティおまかせサポートセンタ」（電話番号は開通時のメールに記載）にご連絡ください。

The screenshot displays the Trend Micro Cloud Edge Cloud Console interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード' (Dashboard), 'ゲートウェイ' (Gateway), 'ポリシー' (Policy), '分析とレポート' (Analysis and Report), and '管理' (Management). A red box highlights the 'すべて配信' (All Distribution) button in the top navigation bar. A red arrow points from this button to the 'ゲートウェイ配信ステータス' (Gateway Distribution Status) window. This window shows a '成功: 1' (Success: 1) status and a list of gateway distribution items, with 'Cloud Edge\_01' highlighted. The main content area shows the '許可/ブロックリスト' (Allow/Block List) section, which includes a table of allowed and blocked URLs.

名前	種類	ゲートウェイグループ
*.apple.com/*	URL	すべて
*.google.com/*	URL	すべて
*.trendmicro.com/*	URL	すべて
*.trendmicro.org/*	URL	すべて
*download.windowsupdate.com/*	URL	すべて
*update.microsoft.com/*	URL	すべて
*windowsupdate.com/*	URL	すべて
*windowsupdate.microsoft.com/*	URL	すべて
*xxxx.xxxx/*	URL	すべて
cloudedge50-p.activeupdate.trendmicro.com/activeupdate	URL	すべて